

みいたうまぐれたるぞあはれにみゆる、そのかみの事など思ひいづるに、めでたき悦の涙ならむかし、御拜をはりぬれば、又もとの道をへたまひて公卿座にいらせ給ぬ、法皇も内に入たまひて、しばしありて、左右の樂屋の調子どいのほりてのち、又御門いらせ給、法皇もおなじまのうち、に、御まどねばかりにておはします、すゑのひさしに内よりまゐれる女房どもさふらふ、略、中上達部座に著て後、御臺まゐる、やくそうは、公泰宰相中將、陪膳右大將、兼その程舞人ひざまづき、地下の舞はめなれたる事なれど、をりからにやけふはことにおも、ちあしぶみもめでたくみゆ、略、中その、ち御まへの御あそびはじまる、頭大夫冬賢御箱のふたに御笛入てもちてまゐる、關白とりて御前にまゐらせ給、右大將も笛、中宮大夫琵琶、大宮大納言笙、春宮大夫こと、右宰相中將は和琴、光忠宰相筆篋、兼尊も吹しにや、柏子左大臣、すゑ、冬みつの宰相、ふけゆくまゝに、うへの御笛のすみのぼりていみじくさえたり、左のおとこの安名尊、伊勢の海かぎりめでたくきこゆ、こといもはてぬれば、御おくり物まゐる、錦の袋に入たる御ふえ箱の蓋にすゑらる、左大臣とりてきて關白にたてまつる、御前に御らんせさせて、冬方をめして給はず、次に唐の赤地の錦の袋に、御琵琶入てまゐる、その、ち御むま、殿上人くちをとりて御まへに引出たり、ほのくどあくるほどにぞ歸らせ給ぬる、

〔宣順卿記〕承應三年正月二日、今日朝觀行幸、光明本院、後水尾女中女院、母后王還御之後、本院女院禁裏へ御幸、

母后同輿

〔本朝世紀〕康治二年正月三日辛卯、天皇近臨幸法皇鳥御在所、小六皇太后宮得同輿、太上天皇、崇皇后宮崇德并障子内親王、同御此所、又攝政藤原室家同被參候、中門廊施翠簾、是依皇德后同輿也、設樂懸奏妙舞、又載伶倫於龍舟、奏絃歌於鳳屐、入夜還宮、有勸賞事、又見〔榮花物語十二玉村薺〕長和五年、略御禊になりぬれば、いみじう常にもわかず、略、中御門後童